

## 新生活の街で増える犯罪リスク

街の安全は「記録」から「把握」へ  
前兆事案データから考える都市防犯

4月から始まった新学期や新生活も、少しずつ落ち着いてくる5月。  
通学や通勤など日常の動きが定着してくる一方で、街の人の流れや環境も変化しやすい時期でもあります。

Secualはこれまで、一人暮らしの方や子ども、高齢者など、日常生活の中でリスクにさらされやすい人々をどのように守るかを考えてきました。そしてそのためには、個人の努力だけでなく、**街全体で支える仕組みが重要**だと考えています。

――今回は、新生活の季節に街で起こり得る身近なリスクを整理しながら、都市インフラとしての見守りの可能性について考えます。

## 新生活と前兆事案

新年度が始まる春は、子どもたちの通学環境や生活リズムが変化する時期。5月頃には通学時間や帰宅時間などの行動パターンが定着し、防犯の観点でも注意が必要な時期と言えます。

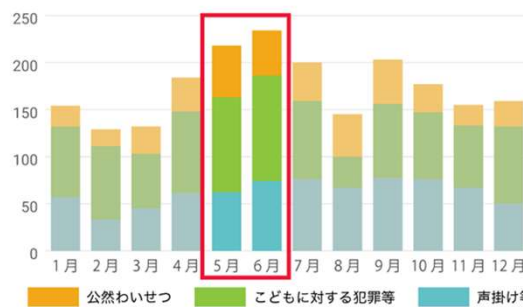
警察では、子どもや女性に対する**声かけやつきまといなどの前兆事案**が、通学路や公園、駅周辺などで発生するケースがあるとして注意を呼びかけています。2026年3月下旬には京都府南丹市で小学6年生の男児が登校途中に行方不明となる事件も発生しました。日常の通学路で起きたこうした事案は、地域で子どもを見守ることの重要性を改めて示しています。

また、5月初旬のゴールデンウィークには観光客や帰省客などで街の人出が増え、普段とは異なる人の流れも生まれました。

こうした傾向を把握するため、警視庁の防犯アプリ「デジポリス」から配信される犯罪発生通知データを整理すると、**5月から6月にかけて通知件数が増加する傾向**が見られました。

このようなデータは、日常生活の中に潜むリスクの存在を示しています。

デジポリス犯罪発生通知（前兆事案）の月別件数

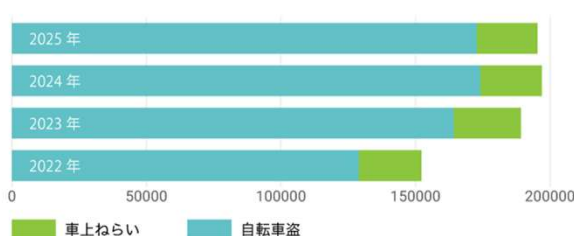


※警視庁防犯アプリ「デジポリス」配信情報を基に作成

## 身近な都市犯罪

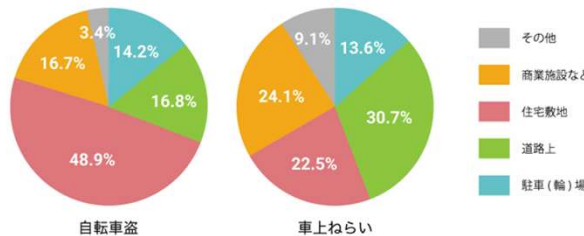
都市部では、自転車盗や車上ねらいといった犯罪が身近な場所で発生しています。2026年3月、横浜市港北区では、自転車盗が9件発生し、そのうち4件が無施錠の自転車を狙ったものでした。また、警察庁や警視庁の犯罪統計からも、これらの犯罪は住宅街や駐輪場などで多く発生していることが分かります。

主な街頭犯罪の認知件数 年間推移



※警察庁「犯罪統計資料(令和7年1～12月分【確定値】)」  
警察庁「犯罪統計資料(令和5年1～12月分【確定値】)」  
をもとに作成

主な街頭犯罪の発生場所



※警視庁「犯罪発生情報2024年(令和6年)車上ねらい」  
警視庁「犯罪発生情報2024年(令和6年)自転車盗」  
をもとに作成

こうした場所では、人通りが少ない時間帯や視線が届きにくい環境など、**"見られていない状態"が生まれやすい**ことが特徴です。一方、防犯カメラは出来事を記録することには有効ですが、犯人の移動や周囲の人の流れまでは把握しにくいという課題があります。

そのため、街の安全対策では「何が起きたか」だけでなく、**人の流れや滞留の有無といった"見られていない状態"を把握する視点が重要**になっています。

## 街の状況をデータで把握する

こうした“見られていない状態”を把握するためには、街の状況をデータとして捉える視点が重要になります。Secual Smart Pole / Smart Podは、防犯カメラによる映像記録に加え、**人の流れや環境の変化を継続的に取得**することが可能です。

### ■ 人の流れを把握する

スマートカメラ搭載で

- ✓人数カウント
- ✓属性分析
- ✓滞留分析

などの人流データを取得し、街の中での人の流れを可視化。

例えば、都立明治公園に導入したSmart Poleはイベント時の混雑状況、人が滞留しやすい場所などをデータとして把握。公園運営における管理DXの実現と警備計画に役立てています。



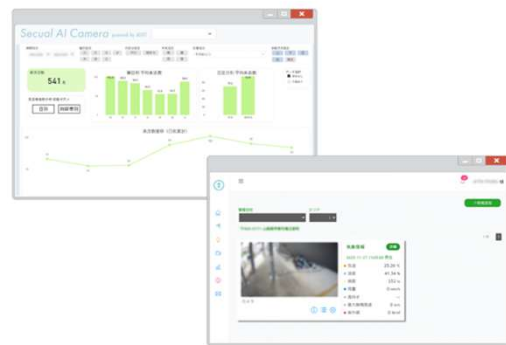
### ■ 街の環境を把握する

気象センサー搭載で

- ✓気温
- ✓湿度
- ✓風速・風向
- ✓雨量
- ✓紫外線量

などの環境データを取得し、設置地点ごとの状況を可視化。

例えば、気温や湿度、日射量等からWGBT（暑さ指数）を算出し、防犯だけでなく屋外活動に対する安全対策にも活用することができます。



これらのデータを組み合わせることで、「人通りが少ない時間帯」「滞留が発生していない場所」「周囲から見えにくい環境」といった、「見られていない状態」を把握することにつながります。さらに、こうした情報を蓄積・分析することで、犯罪や事故が発生しやすい条件や傾向を把握し、対策に活かすことも可能になります。

## 街が状況を知らせる未来

将来的には、こうしたデータを活用し **街そのものが状況を伝えるインフラ** へと発展していく可能性があります。

例えば、Smart PoleのLEDを活用し、環境状況に応じて色を変えることで、街を歩くだけでその場所の状況を視覚的に把握できるようになるかもしれません。

さらに、サイネージと連携することで、**気温や紫外線情報・雨の接近状況・近くの休憩スポットや避暑場所**など、街の状況に応じた情報をその場で提供することも可能になります。

私たちがスマートフォンで情報を探さなくても、**街の側から状況を知らせてくれる。そんな仕組みがあれば、より安全で合理的な都市環境につながるのではないのでしょうか。**

――Secualはこれからも、Smart Pole / Smart Podを通じて、街のデータを活用した安全で安心な都市環境づくりに貢献してまいります。



<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社Secual 事業戦略室 広報/PR担当：大野  
TEL：080-3728-7459 Mail：pr@secual-inc.com